

療育活動における強み活用の参考例 🧐 架空の子ども：たける君（小学校3年生）

- 【強み（ストレングス）】
- ・ 数字や記号を覚えるのが得意（記憶力）
 - ・ パズルやロジックゲームが好き（論理的思考）
 - ・ 図形や形に強い興味（観察力）
 - ・ 落ち着いた環境で集中できる（粘り強さ）

🌱 療育活動例①：「数パズル探偵団」

【目的】 記憶力・論理的思考を活かし、楽しみながら問題解決力を育む

【活動内容】

- ・ 数字をヒントにしたミッション型ゲーム（例：「宝箱のカギは $O + O = 10$ 」など）
- ・ 図形パズルやナンプレ形式の問題に挑戦
- ・ 子ども自身が「問題作成者」になって、他の子に出題もできる

【ねらい】

- ・ 楽しみながら成功体験を積む
- ・ 他児との協力や発表を通して社会性も育成

🌱 療育活動例②：「ぼくのロジックマップ」

【目的】 得意な図形や記号を使って自分だけの地図やゲーム盤を作成

【活動内容】

- ・ 用意された図形パーツやシールを組み合わせてマップ作り
- ・ 「この道を進むと何がある？」と論理展開しながらストーリーを作る
- ・ 完成した作品を発表・共有する

【ねらい】

- ・ 創造力と論理力を同時に育む
- ・ 表現する楽しさを感じることで、自己肯定感を高める

🌱 療育活動例③：「集中クラフトタイム」

【目的】 集中力と粘り強さを活かして、細かい作業に挑戦

【活動内容】

- ・ 数字を並べるビーズアート（例：「1,2,3…」の数字列で模様を作る）
- ・ パターンを繰り返す折り紙・工作
- ・ 作品を飾ったり、プレゼントとして他児に贈る体験

【ねらい】

- ・ 自分の得意を「形」にする達成感
- ・ 他者との交流や感謝の気持ちを育む